



競技規則適用のガイドライン – サイドエントリー 2022年7月

2020年3月、[ブレイクダウン全体](#)を網羅する「競技規則適用ガイドライン」が発表されました。

本来、この指針では「ブレイクダウンが競技規則の精神に従ってコーチングされ、前向きな、かつ、正確なかたちでプレーされ、また、一貫性をもってレフリングされること」を明文化していました。

全体的としては、この方針がコーチング、プレー、レフリングに適用されたことで、よりクリーンで安全なブレイクダウンが見られ、特にジャッカラーの下肢の保護、単独のプレーヤーによるラッチングを容認すること、2人以上のプレーヤーがプレラッチ~~4~~ングをするフライングウェッジを反則とする2021年の世界的試験実施ルールに沿ったものであり、これらの試験実施ルールはその後、正式な競技規則として採用されました。

しかし、プレーヤーやコーチからのフィードバックにより、1点、攻撃側と防御側の両方のプレーヤーによるサイドエントリーという要素について改めて焦点を当てる必要性が示されました。

アライビングプレーヤーの角度とスピードが原因で下肢を負傷するケースが、依然として残っています。また、ブレイクダウン時にプレーヤーがひっくり返された場合、軽度の範囲ではありますが、危険な負傷となる可能性が存在しています。

このことから、ワールドラグビーでは、アライビングプレーヤーがブレイクダウン、ラック、モールに入る方向と角度に関して、試合中に既存のガイドラインと競技規則をより厳格に適用するよう、レフリーに要請しています。

重要なメッセージは、プレーヤーはブレイクダウン/ラックに参加するときに「**まっすぐに**」入らなければならないということです。

既存の競技規則:

タックルに関する競技規則 14.6 – タックラーは、前述の責任を果たして、ラックが形成されていなければ、自陣ゴールラインの方向からボールをプレーしてよい。

タックルに関する競技規則 14.8c – ボールをプレーする前に、自チームのゴールラインの方向からタックルに到着する。

ラックに関する競技規則 第15条 原則 – ラックの目的は、プレーヤーに地面にあるボールを争奪させることである。

ラックに関する競技規則 15.5 – 到着したプレーヤーは、立っていなければならない、自チームのオフサイドラインの後方から参加しなければならない。

ラックに関する規則 15.6 – プレーヤーは、最後尾のプレーヤーに並んで参加してもよいが、最後尾のプレーヤーの前方に参加してはならない。

ラックに関する規則 15.16b – ラックを故意に崩す、または、ラックの上に飛び乗る。

ワールドラグビーは、これらの競技規則と2020年ガイドラインの中に記載されている詳細について、すべてのステークホルダーに対して、改めて通達いたします。

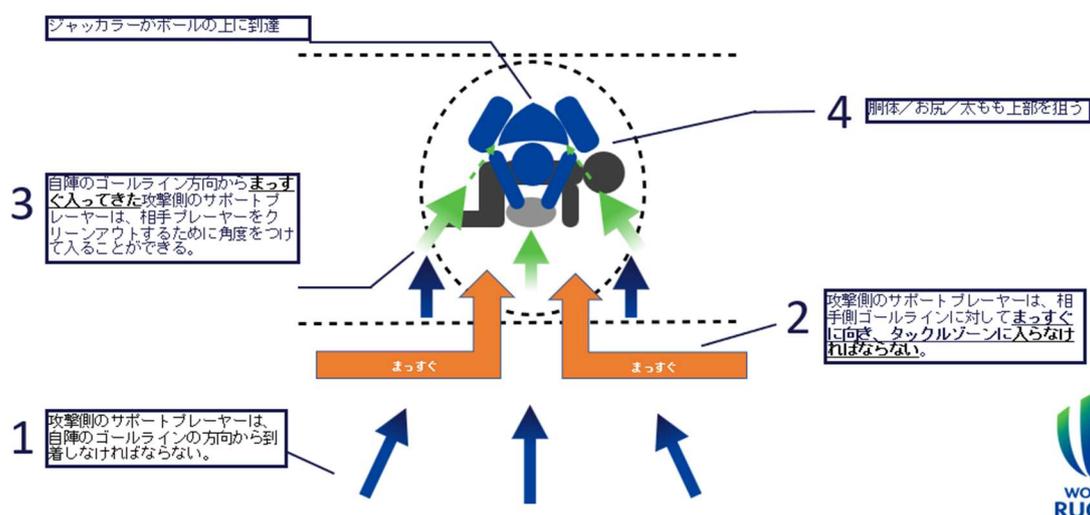
サイドエントリー-ガイドライン

サイドエントリーはレフリングの対象である。プレーヤーには「ダイブではなくドライブ」することが必要な「**LA エントリー**」を行うことが求められる。

L字型+アングル(LA)エントリーとは、ブレイクダウンに到着する際の角度(下図のオレンジ色の矢印のようなL字型)に関することであり、プレーヤーは、このように到着した後、角度を変えて(緑色の矢印)入ることができます。

「L字型エントリー」-プレーヤーが「まっすぐ」入ることが一番大切です。

ブレイクダウン-「L字型 & アングル」(LA エントリー)



アライビングプレーヤーの優先順位

まっすぐに入る

攻撃側のサポートプレーヤーは、相手ゴールラインに対してできるだけまっすぐに向き、タックルゾーンに入らなければならない。

ゴールラインの方向

攻撃側のサポートプレーヤーは、自陣のゴールラインの方向から到着しなければならない。

角度をつけて入る

上記を行う攻撃側のサポートプレーヤーは、相手プレーヤーをクリーンアウトするために角度をつけて入ることができる。

ダイブでなくドライブ

アライビングプレーヤーは「ダイブでなくドライブ」をしなくてはならない。地面から足を離してダイブするのではなく、ちいさな歩幅のステップを踏みながらバインドする。

シールオフの禁止

攻撃側のサポートプレーヤーは、争奪をシールオフするために地面から足を離してはならない。

重要な要素

腰がタッチラインの方に向いていること

腰は、エントリーの際にタッチラインの方を向いてはいけない(深いところから、そして、LA エントリー内から到着すること)

タックラーがボールキャリアーに乗っかること

アライビングプレーヤーは、ボールキャリアーの上に乗っかっているタックラーを競技規則に則り押し出すことができる(ただし、バインドせずに腕を引っ込める動作を行ってはいけない)。レフリーは動きが遅い動作に対して、より厳しく見ていくことになる。

タックラーへのダイビング禁止

アライビングプレーヤーは、タックラーめがけてダイブしてはいけない。また、ボールの近くにいないプレーヤーに対してタックルをしたり、ブレイクダウンからプレーヤーを過剰に離れさせたりしてはいけない。

不正なプレー: これらのことは、タックル/ラックの中で起こり得るものであり、適宜レフリングされることにいま一度留意すること。

アライビングプレーヤーは、いかなる不正なプレーの違反、危険とみなされるプレーも行ってはならない。

これには、下記のものが含まれるが、これに限るものではない。

足を水平ラインより上に持ち上げる

どちらのサイドのアライビングプレーヤーも、プレーヤーの足を水平ラインより上に持ち上げてはならない。

ショルダーチャージ

アライビングプレーヤーは、ボールを争奪しているプレーヤー、またはボールの近くで地面に倒れているプレーヤーにチャージしてはならない。

首をつかむ/ひねる

アライビングプレーヤーは、争奪から取り除く、または、地面に倒すためにジャッカラの首に手を回して、ひねったりしてはならない。

スタンピング(踏みつけること)

アライビングプレーヤーは、他のプレーヤーを踏みつけてはならない。

頭部へのコンタクト

参加しているプレーヤーは、他のプレーヤーの頭が地面に先につくように、他のプレーヤーを地面に倒してはならない。